PT. JAPAN BRIDGE ASIA

NANMEI KENBUNROKU

南溟見聞録

Vol. 008 捌号

インドネシアの成長企業と日本を、M&Aと提携でつなぐ。

隔週配信／PDF版

Greetings

皆様へ

こんにちは。PT. Japan Bridge Asia 代表の播磨谷洋一です。本 PDF ファイルは、これまでにお名刺を交換させていただいた方、また業務でご縁のあった皆様へ、私の判断でお送りしております。

「南溟」とは、荘子が描いた大鵬が目指す南の大海のこと。日本から南洋の島々を望み、現地の生きた情報と、その奥にある大きな流れをお届けできればと、この見聞録を始めました。

前号では、株価の急落を取り上げました。今号は、もうひとつよく聞かれる話題、為替です。「ルピアが過去最安値に近い」「円安が止まらない」。どちらも、ドルを物差しにした話です。

では、物差しをドルから外して、円とルピアの間で測ると、どう見えるのか。今号の問いは一つです。**ルピア安は、円から見るとどれほどのものなのか**。そして、為替の変動は誰に、どんな利益をもたらしているのか。数字で確かめました。

播磨谷 洋一
YOICHI HARIMAYA

CONTENTS
目 次

01 ドルで測れば、どちらも下がった
02 円とルピアで測れば、揺れは小さい
03 為替の変動が生む利益
04 円とルピアで、直接つなぐ

本号のテーマ

ルピア安、
円から見れば。

其の一

CHAPTER 01

ドルで測れば、どちらも下がった

ルピアも円も、この5年でドルに対して大きく値を下げました。

2021年の年明け、1ドルは13,895ルピアでした。それが今は約18,100ルピア。ドルに対するルピアの価値は、5年で約23%下がったことになります。10月16日には、史上最安値の18,190ルピアに迫る場面もありました。

ただ、円の下げはもっと大きいのです。同じ2021年の年明け、1ドルは約103円でした。今は約158円。ドルに対する円の価値は、約35%下がっています。**この5年に限れば、ルピアよりも円のほうが、ドルに対して弱かった**のです。

−23%	−35%	−15%
ルピアの価値（対ドル） 2021年1月→2026年11月	円の価値（対ドル） 2021年1月→2026年11月	円の価値（対ルピア） 同じ期間

今年に限ると、景色は少し違います。年明けの1ドル＝16,725ルピアから約18,100ルピアへ、ルピアは対ドルで約7.6%下げました。一方の円は、年明けの約156.6円から約158円と、ほぼ横ばいです。今年下げたのは、主にルピアのほうでした。

どちらにしても、ここまでの数字はすべて「ドルで測った」ものです。日本とインドネシアの間でお金が動くとき、本当に効いてくるのは、円とルピアの間の値段です。

> ドルで測れば、どちらも下がった。
> 円は、ルピア以上に。

其の二

CHAPTER 02

円とルピアで測れば、揺れは小さい

物差しをドルから外すと、二つの通貨の揺れはずっと小さく見えます。

円もルピアも、ドルに対しては同じ方向に動いてきました。どちらも下げたのだから、二つの通貨の間では、その多くが打ち消し合います。1万円で何ルピア買えるかを、節目ごとに並べてみました。

時点	1ドル＝ルピア	1ドル＝円	1万円＝ルピア
2021年1月	13,895	約103	約135万
2025年1月	16,198	約157.5	約103万
2026年1月	16,725	約156.6	約107万
2026年11月5日	約18,100	約158	**約114万**

5年で見ると、ドルに対してはルピアが約23%、円が約35%値を下げました。ところが**円とルピアの間の動きは約15%。ドルに対する円の下げの、半分以下**です。二つの通貨が同じ方向に動く分、日本とインドネシアの間の取引では、ドルの値動きほどの揺れは生まれにくいのです。

そして今年は、むしろ円の側に追い風が吹いています。年明けに1万円で約107万ルピアだったものが、今は約114万ルピア。**円で見たルピアは、年初より約7%安くなりました。**ニュースの見出しは「ルピア安」ですが、日本から見れば、それはインドネシアのモノやサービスが少し買いやすくなった、ということでもあります。

−7.6%	−0.9%	＋7%
ルピアの価値（対ドル） 2026年1月→11月	円の価値（対ドル） 2026年1月→11月	円の価値（対ルピア） 2026年1月→11月

> ドルの物差しを外すと、
> 揺れは小さくなる。

其の三

CHAPTER 03

為替の変動が生む利益

通貨が安くなると、損をする人がいる一方で、得をする人もいます。

ドル建てで輸入する企業や、ドルで借金をしている企業にとって、ルピア安は負担です。ただ、同じ変動が、別の誰かには追い風になります。今のインドネシアで、その風を受けているのは次の人たちです。

輸出企業	ドルで売って、ルピアで費用を払う企業は、同じ売上でも手元に残るルピアが増える。インドネシアの貿易収支は、1〜9月で106.1億ドルの黒字を積み上げている。
観光	海外からの旅行者にとって、インドネシアは割安な行き先になる。1〜9月の外国人訪問者は1,201万人（前年同期比5.01%増）で、コロナ禍以降で最も多い。観光副大臣も5月、ルピア安が旅行者を呼び込み、滞在を延ばす後押しになりうるとの見方を示している。
日本からの仕送り	日本で働くインドネシアの人は22万8,118人（2025年10月末）。国籍別で4番目に多い。仕送りの10万円は、年明けの約1,068万ルピアから、今は約1,145万ルピアになって家族に届く。
日本からの支出	1億ルピアのモノやサービスは、年明けなら約93.6万円、今なら約87.3万円。円で払う側にとっては、約6万円安くなった計算になる。旅行も、仕入れも、事業への投資も同じ理屈である。

もちろん、インドネシアの物価も上がっています。9月の消費者物価は前年比3.28%の上昇でした。為替で得た分の一部は、この物価の上昇で相殺されます。それでも差し引きで、円で払う側が有利な状態に変わりはありません。

106.1億ドル
貿易黒字（2026年1〜9月）

1,201万人
外国人訪問者（1〜9月）
コロナ禍以降で最多

22.8万人
日本で働くインドネシアの人
（2025年10月末）

> 誰かの「通貨安」は、
> 別の誰かの「追い風」になる。

其の四

CHAPTER 04

円とルピアで、直接つなぐ

ドルを通さずに、円とルピアで直接やりとりする仕組みが、すでに動いています。

日本の財務省とインドネシア中央銀行（BI）は、2020年8月から、円とルピアで直接決済する枠組みを運用しています。ドルに一度替える手間とコストを省き、ドルの値動きの影響を受けにくくする仕組みです。2025年7月時点で、日本との利用額は約51億ドル。中国に次いで2番目の規模でした。

この枠組みは2025年12月15日に改訂され、対象が「貿易と直接投資」から「両国間のすべての経済取引」へ広がりました。**日本とインドネシアの間のお金の流れを、円とルピアだけで完結させる道が、制度として広がっている**のです。

ルピアを支える動きも続いています。BIは10月21日、政策金利を5.75%に据え置き、預金ファシリティ金利を5.00%に引き上げました。為替介入やヘッジ手段の後押しも重ね、6月以降に約99億ドルの海外資金を呼び込んだとしています。為替の先行きは、誰にも当てられません。だからこそ、どの通貨で受け取り、どの通貨で払うかを、あらかじめ整えておくことが大切になります。

2020年8月	2位	5.75%
円・ルピアの直接決済の枠組みが始動	日本の利用額（約51億ドル）中国に次ぐ（2025年7月時点）	BIの政策金利 10月21日に据え置き

今号の答えは、こうです。**ドルで測れば、ルピアも円も下がった。けれど、円とルピアの間で測れば、揺れはずっと小さい。**そして今年に限れば、円で見たルピアは約7%安くなり、日本からインドネシアへの支出には追い風が吹いています。見出しの「ルピア安」だけで判断せず、自分が使う通貨の組み合わせで測ることが大切です。

※本稿は情報提供を目的としたもので、投資・為替取引の勧誘や助言ではありません。為替レートは2026年11月5日時点の概算です。

物差しを変えれば、
景色が変わる。

前号で私は、株価と企業の実力の間に差が開いていると書きました。為替も同じです。「ルピア安」という見出しの裏で、円から見たインドネシアは、年初より少し近く、少し手の届きやすい場所になっています。

為替の数字は、これからも揺れ続けます。それでも、日本とインドネシアの距離は変わっていません。次号では、11月11日に発表されるMSCIの定例見直しの結果をお伝えする予定です。

次号も、南溟の風に乗せてお届けします。



播磨谷 洋一　YOICHI HARIMAYA

FOUNDER / CEO　PT. JAPAN BRIDGE ASIA

インドネシアに拠点を置いて9年目。成長を続けるインドネシア企業と日本の資本・パートナーをつなぐ、戦略的M&A・提携アドバイザリーを主軸に、市場参入とコンプライアンスの支援も手がける。資源・物流・建設の現場で培った実務経験と現地の人脈を土台に、日本とインドネシアを確かにつなぐ。

PT. JAPAN BRIDGE ASIA

インドネシアの成長企業と日本を、M&Aと提携でつなぐ。

WEB　japanbridge.asia

MAIL　info@japanbridge.asia

HEAD　Wisma Keiai Lt.2, Jl. Jend. Sudirman No.Kav. 3,
Jakarta Pusat, DKI Jakarta 10250, Indonesia

本 PDF ファイルは、お名刺を交換させていただいた方、また業務でご縁のあった方にお送りしています。今後の配信をご希望されない場合は、上記のご連絡先までお気軽にお知らせください。